

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400762		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	兵庫県神埼郡神河町福本字中茶屋山1241-3		
自己評価作成日	令和 4 年 5 月 18 日	評価結果市町村受理日	令和 4年 8月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花
訪問調査日	令和 4 年 5 月 30 日

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・四季の移り変わりが感じられる静かな環境に恵まれている。
 ・食事は職員の手作りで、食後、片づけや食器洗いなど、自然に役割ができています。
 ・掃除を手伝われる入居者、洗濯物を干す、たたむなど、自分のできることを、していただいている。
 ・入居者の誕生日には、その方の好みの献立を工夫し、近隣の花屋でアレンジしたお花と、ケーキでお祝いする。
 ・訪問看護の週1回の訪問は、健康チェックと共に、入居者一人一人の体調の変化や、オンコールでの相談に応じてもらっている。
 ・訪問歯科診療で、歯科医師による歯科治療や衛生士による口腔ケアが受けられ、職員もアドバイスを受けながら、食後の口腔ケアが行えている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かなのどかな環境の中で、利用者はこれまで通り変わらぬ生活を送っている。地元の季節ごとの食材を使った毎日のように食べていたお惣菜を職員と一緒に手作りし、それぞれの好物に会話が盛り上がるなど、食べることを心から楽しんでいる。ここでの暮らしが長くなり、歳を重ねるにつれできないことはどうしても増えてくるが、今の利用者の状態でできることできそうなことを、さりげないサポートで職員は見守っている。当然、利用者同士の些細なさかしまいも日常の営みの中であたりまえに見受けられるが、一人ひとりがありのまま自分らしく暮らすためには必要なことであり、自然に受け留められている。人としての喜怒哀楽を尊重しつつ、利用者同士、利用者と職員が、一つの家族のようにわきあいあいと過ごすかけがえのない日々を、これからも大切に続けていきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

(令和3年)せせらぎ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「思いやり・安心安全・やすらぎ」ホームでは、「入居者が、職員とともに楽しみを持ち、自分らしく暮らせるホームを目指します」を合言葉に、支援を続けている。令和3年度の支援目標の一つに「元気の源は水分摂取から」を掲げ、飲み物をしっかり摂ることが活気に繋がる事を実感した。	管理者は、入居者の気持ちや意思を出来るだけ聴き取り、把握しにくい場合は汲み取ることにより、その人らしい暮らしの実現に少しでも近づけるのではないかと考えている。職員には、流れ作業的な業務にならないよう、些細なことでもその人にとっては必要かつ大事なこととして受け留められるようにと伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍での制限が続いてる中、地域の高校との訪問や交流は続いており、季節毎の掲示物やクリスマス・お正月用の飾りをいただいた。 町の文化展には作品を出品しているが、感染予防の為、展示会の見学には出向いていない。	地元の高校生とは対面ではないが、手作りのお誕生日カードやキャラクターグッズ、季節の掲示物などをこれまで通り届けてもらい、交流が続いている。また、利用者は、恒例となっている文化展出品作品作りにも励み、写真で展示風景を見ながら楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の事業所有志で「地域サロンらくや」を立ち上げているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策の点から、活動を中止している。 町の認知症ケア推進部会には、ホームより施設長がメンバーとなり、2か月に1回参加し、地域への住民に向けて認知症の理解や支援等取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族様に出席して頂き、意見交換が出来る時間を設けている。 家族様からの要望・意見には耳を傾け、職員間で話し合い、検討し取り組んでいる。	年3回開催され、今期も対面と書面報告で行った。事業所からの報告が主で、写真で利用者の行事での様子を伝えている。地域代表者からはケアに関する意見、家族からは利用者の様子に安堵する声が聞かれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、町担当者へ案内を出し、毎回出席頂いている。日々の活動での相談や制度上の疑問については、その都度、適切なアドバイスを受けている。	運営推進会議では、毎回直接、意見や情報提供をもらえ、特にコロナ防止対策に関しては、相談できることも多い。	

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者に対する声かけ、普段行っているケアや対応について、その都度職員間で話し合いを設けている。玄関の施錠については、玄関横の坂道が急で危険な為、安全を優先と考慮して、施錠を行っている。	3か月毎の身体拘束適正化委員会の開催を通して、事例検討等学びの機会を持っている。職員は、常に身体拘束に関して注意を払い、意識を高めるよう努めている。玄関の出入りについては、やむをえず安全のため施錠している。	施錠が常態化しないためにも、少しの時間からでも開錠できないか、継続して検討いただきたい。
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の身体状況の変化については、その都度、職員間で話す機会を設けている。職員研修で学ぶ機会もあるが、月一回のグループ会議でも、自分たちが行っているケアが虐待に繋がって行かないか、振り返り、考える機会を持っている。	管理者は職員に、日常的な利用者の丁寧な身体状況の観察の必要性を説くとともに、毎月のホーム会議で事例を通じて、不適切ケアの防止を図っている。また、職員へのアンケートを参考にし、個々の意識向上に向けた機会にもしたいと考えている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するパンフレット等を備えている。現在は、それらを活用するケースはないが、入居の際、契約時にパンフレットをお渡しすることも考えている。	これまでの活用事例は1件のみであるが、契約時に、家族の状況に応じて情報提供し、必要であれば資料を渡すこともある。職員への定期的な研修は行っていない。	例えば、会議等の中で、短い時間でも学ぶ時間を工夫していただきたい。
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、サービス内容や料金に関する説明を十分に行い、不明な点や不安は無いかを尋ね、理解、及び納得を得ている。	介護保険外に係る実費など、費用に関することや医療に関わることなどを丁寧に説明する。入居後も、家族との関わりやつながりが必要であることから、協力をお願いしている。契約の際に気づかないことや後日不明点が出た場合には、いつでも、遠慮なく聴いてほしいことも家族に伝えている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日時設定のもと、運営推進会議を開き、家族に出席して頂き、意見交換を行っている。入居者や家族の要望や意見に、対応が出来るように努めているが、令和3年度、新型コロナウイルス感染症に於ける面会についての要望には、応じきれないこともあった。	家族会は設けていないが、利用者の普段の様子や状態変化に応じ、その都度電話等で説明し、家族の意向を聴いている。対面での面会はできていないが、利用者とは玄関の窓越しに顔を合わせ、体調をみてもらっている。運営推進会議の中で参加家族から思いを聴かせてもらうこともある。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホーム会議では、職員の意見や提案が出るようになり、又、会議の際は、各担当者からも意見を引き出し、職員全員で関わられるよう努めている。また、月1回、併設特養での責任者出席の会議で意見や提案を伝えることもある。	毎月のホーム会議はもとより、日常の業務を通じて提案や意見を聴いている。普段は、各ユニットリーダーが職員の意見等を拾ったり聴取し、管理者に挙げることが多い。人事考課による自己評価や面談を通じて聴くこともある。	

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回、自己評価を行い、自己目標の振り返り、新たな目標の設定をする事により、向上心を持って働けるよう努めている。勤続5年、10年、15年20年、25年と該当する職員には、理事長から表彰と金一封を贈っている。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用後の新人研修、毎月の介護職によるスキルアップ研修、職員研修、又、地域で行われる外部研修の機会を設けている。令和3年度は、地域での研修が一部リモート研修になっている。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所の有志で立ち上げた「楽護会」は、新型コロナウイルス感染症対策のこともあり、休みとなっている。地域の医療・介護の連携として、勉強会に管理者が参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを基に、本人との事前面談、自宅訪問やホーム見学等を通じて、安心、やすらぎに繋がる関係作りに努めている。認知症であることを踏まえた上で、ホームが落ち着ける場所であることを、理解してもらえよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との事前面談で、困り事や不安な事、要望等をお聴きし、家族の思いを受け入れ、信頼関係の構築に努めている。また、家族としての役割や協力していただきたいことなどは、この段階で、お話しし理解を得るようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーからの情報、他施設との情報交換や連携をしながら、本人と家族が希望し、必要としている支援が何なのか、見極めるよう努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とのコミュニケーションを図り、これまでの人生経験を教わりながら、職員の経験も融合し、そういったものを生かした、個々の入居者の支援に努めている。		

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人や家族の思い、気持ちを受け入れながら、楽しく元気に暮らして頂けるよう、居心地良い、環境作りに努めている。時に、職員でなく家族の判断に委ねることもしながら、本人と家族の関係性を大切にしてい		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍に於いて、ふれあい祭りや秋祭り、併設特養での敬老会は中止であった。又、外出禁止の為、美容室や買い物同行は出来ていない。問い合わせについては、丁寧にこちらの状況を説明し、理解を得るように努めた。	家族とは窓越しでの制限された対面のみであるが、中には所持する携帯電話で話をしている人もい	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、職員も共に、入居者同士の信頼関係に努めているが、トラブルの際は、早めに対応出来るように努めている。入居間がない方については、話しかける機会を多く持ち、入居者同士が触れ合うよう配慮している。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の近くに職員が住んでいる為、生活の様子や表情などを聞いている。又、入院の際や他施設への移動時、ホームでの生活状況等の情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を念頭にコミュニケーションを図り、性格を把握し、興味を示される事を支援している。又、個々の能力に合った事を、日々の生活の中で行っていたい。出来る事、出来ないこと、やりたいこと等、一人一人の希望に応じている。	普段のなにげない会話や行動から、利用者の思いを察したり、利用者間のやりとりからも汲み取ることがある。入浴時や居室での1対1での会話からは、普段聞けない話や本音が出ることもあり、参考にして	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当のケアマネージャーより生活情報を得ながら、必要な支援に努めている。側に寄り添い会話する中で、馴染みの暮らし方の情報を得ている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活動作記録表、パソコン内のケース記録、引き継ぎ帳、職員同士の口頭での引き継ぎにて状態の把握に努めている。又、病院受診の際は受診ノートに記録する事で、職員皆が心身の状態も把握出来るようにしている。		

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者自身の自己決定や思いを尊重し、実現可能な計画を立てるようにしている。身体状況が変わった時は短い時間でも、ケア検討を行い介護計画に生かすようにしている。	担当職員が中心となり、その日のケア内容の実施状況をチェックしモニタリングする。それをもとに、利用者の状態変化に即してケア内容を検討し、家族の意向も参考にケアマネが計画を作成している。利用者にとっての自分らしい暮らしのための計画を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は、ケース記録としてパソコンに入力している。特記事項や重要項目は、引継ぎ帳にも記録し口頭でも伝え合い、日中や夜間時の様子も、記録し把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望は、ホームの中で対応出来る事は希望に沿うよう努めているが、感染予防の為、外泊、外出、外食は、引き続き控えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の文化展に参加されたり、ボランティアによる紙芝居、手品、きらり体操、映画鑑賞も楽しまれていたが、新型コロナ感染予防の為、現在は控えている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や協力病院、併設施設の嘱託医院を受診している。家族が付き添えない時は、職員が付き添っている。	大方の利用者は、入所前のかかりつけ医に家族と通院している。状況により職員が通院や送迎の支援をしている。週1回の訪問看護師が、健康管理や相談にも応じ24時間体制で支援している。希望者は歯科医の訪問診療や口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師に入居者の状態を知らせ、日常の健康管理、緊急時の対応や処置を行って頂き、アドバイスを受け、状態によっては病院受診を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対して、本人の情報提供を行い、家族や病院の地域連携室から情報を得て病院での状態を把握しているが、現在は新型コロナ感染予防の為、面会ができなくなっている。退院後は良いケアが出来るように医療従事者より引継ぎを行っている。	入院は、協力医療機関が多く利用者の情報を伝え、その後の状態を聴き把握に努めている。直近の入院者は救急車で別の病院に入院したが、地域連携室と情報を交換しており、現在退院に向けてのリハビリ中である。入院時の居室確保期間は2カ月としているが、話し合いにより柔軟に対応している。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期をどこで迎えるか、ご本人、家族の思いを尊重し、ホームで出来る事、出来ない事を説明し、話し合うように努めている。 「重度化した場合の意思確認書」を作成し、意向を聞き始めている。	契約時に、事業所での看取りの受け入れは可能である事を説明している。法人の施設である特養への移行も視野に入れ随時の相談に応じる事が、家族の安心につながっている。、重度化した場合の意思確認書については、検討を重ね作成中である。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修やスキルアップ研修で緊急時の対応を勉強している。AEDの使用方法は一人一人行うよう研修があったが、令和3年度は、行っていない。事故があった時は、事故報告書により把握し、今後の対応策を職員間で話している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養と合同で、昼間、夜間を想定し、消防避難訓練を実施。又、台風などの大雨の時は、地元の防犯の見守りがあり、防災行政無線も取り付けられている。BCPについては、併設特養とともに作成する予定である。	併設の特養と、夜間想定を含め年に2回の避難訓練をしている。利用者が安全に避難できる方法を日ごろから職員間で話し合っているが、利用者避難の確認済方法の整備は不十分である。避難訓練時に運営推進委員や家族の見学はない。	災害時に利用者避難済みの確認ができる方法を整えていただきたい。 訓練時に、家族や運営推進委員に見学依頼をされてはいいかがか。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者の人間性を理解し、自尊心を傷つけないよう、安心して楽しく過ごして頂けるような言葉かけや対応に努めている。 身体拘束適正化委員会でも、日頃行っているケアが拘束や虐待に繋がらないかを話し合っている。	利用者個々の尊厳を維持し、それぞれに合わせた日常が送れるよう配慮している。不必要な行動制限や指示的にならない様、個々に沿った支援をしている。入浴中に他の職員が出入りしない配慮や、歯科医師の診察時のプライバシーに留意した支援に努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場面によっては、入居者の思いを理解できない時もあるが、日頃から行動、表情、性格等を観察して、自己決定が出来るよう働きかけている。 衣服の選択、飲み物の種類、レクリエーションへの参加等、小さな事で自分で決める事の喜びを感じていただく。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、個々の思いを引き出すような言葉かけに努めている。又、ホームでの制限が多い中で、出来る限り希望に応じた暮らしをして頂けるよう、支援に努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診の際には、着て行く服をご自分で選んで頂いている。その際、職員が付き添い、季節に応じた服装を選べるよう、声かけを行っている。		

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に好みのメニューをお聞きしたり、日々の食事の中で、美味しそうで、食欲をそそるような盛り付けを工夫している。調理手伝い等は、感染予防の為、引き続き、控えて頂いているが、食器洗いやお膳ふきなどは、行っていたい。	食事は、ユニット毎に利用者の意見を参考にメニューを作り、旬の食材を取り入れ毎食手作りにしている。利用者はテーブル拭きや食器洗い、時には下ごしらえを手伝い、出来る範囲で参加している。職員はコロナ感染防止の為、現在は同じ食事を時間差で食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ADL表に基づき、個々の食事摂取量、水分摂取量は観察、把握している。又、個々の好きな飲み物を提供しよう心がけている。夜間は、就寝前、起床時と水分補給して頂き、身体のバランスや活力を整えて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々で口腔ケアを行っている。夜間、義歯を外される方は、週2回(木・日)に洗浄剤を使用している。一人で出来ない方は職員が介助している。又、週一回の訪問歯科診療で希望者は診て頂いている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の入居者の排泄時間等を記録することでパターンを把握し、トイレの声かけを行っている。又、時間間隔を見ながら誘導する場合もある。夜間は、ポータブルトイレ使用の入居者もおられる。	大半の利用者は声掛け誘導等の支援でトイレで排泄している。言葉で伝えられない利用者は、仕草や行動で判断し確認しながら支援している。昼夜でパッドを使い分けている利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に、ヤクルトや人参ジュースを提供している。メニューにもヨーグルト、納豆、繊維質の多い食べ物等を取り入れ、自然排便を促している。又、薬が必要な方は、便秘薬も合わせて服用して頂いている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事以外は、午後2時より入浴して頂いている。 9名の入居者に対し、体調不良以外、週に2回～3回程度の入浴が出来ている。	入浴は午後から実施し、週に2～3回を目処に入っている。入浴を好まない利用者は、思いを受け止め無理強いせず柔軟に対応している。寒い時期は足浴しながら洗身して、湯が溢れる浴槽に浸かってもらっている。入浴を楽しむための工夫は特にしていない。	1対1のコミュニケーションの場を大切に して、入浴をより楽しいものにされてはどう でしょうか。

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者に合った寝具、ベッドで休んで頂いている。居室の照明は入居者に合わせて調節している。就寝前は飲み物を提供し、落ち着ける環境作りに努めている。薬の必要な方は、眠前薬も服用頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の受診記録、薬事情報にて、薬の用法、用量を把握している。受診記録は、各職員が見てサインしている。薬が変更になった場合も、記録と同時に口頭での引継ぎを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において、毎日の洗濯たたみ、干し、内外の掃き掃除や拭き掃除、外気浴等に参加して頂くことで、職員とのコミュニケーションも図れ、入居者自身のやりがい、自信にも繋がっている。 新聞の購読、読み物の支援、カラオケや唄うことの支援なども行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年に引き続き、現在まで、新型コロナウイルスの感染予防の為、外出支援は出来ないが、希望で、家族付き添いや職員付き添いにて、選挙に行かれた入居者が2名あった。	コロナ禍での外出は、受診時以外はほとんどなく、事業所周辺で花見をしたり、花壇の手入れや見学をする事も有る。外気浴を兼ねたお茶会を催す等の楽しみの機会を増やす工夫をしている。外出が可能になれば、ドライブを中心に、行きたい所を思い浮かべ楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者はお金の所持はないが、必要に応じて購入する際は、ホーム立替金にて購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方からの手紙やハガキが届いたら、本人に直接手渡し読んで頂けるように支援している。自分で読むことが出来ない方には職員が代読している。携帯電話をお持ちの方には自由にお話をして頂けるようにしている。		

自己	者三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、玄関やリビングには季節に応じた花や飾りを取り入れるように心がけている。入居者が楽しく、リラックスして過ごせるような音楽を流したり、ジュークボックスも使用しながら、心地よい空間作りに努めている。	窓から見える花木や事業所の花壇で育てた花を、玄関やリビングに飾り季節感を出している。貼り絵や趣味の習字を飾ったり、暖簾を作って浴室入り口に掛けたり、利用者が作る楽しみと、見て楽しむ事が出来る空間である。利用者は畳スペースで洗濯たたみや手芸、おしゃべりをする等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士、歌を唄ったりゲームをしたり、時には談笑されたり、自然な形で過ごせるような、個々の居場所を工夫させて頂いている。席の配置は密にならないよう、間隔をとらせて頂いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々に応じた家具の配置を行い、整頓出来ない方は、タンスに何が入っているか表示している。家族写真や誕生カード等を飾る事で、自分の部屋である事を認識して頂き、安心して過ごして頂くよう、配慮している。	表札は、名前の周囲に様々な千代紙で飾り、手作りのこいのぼりを掛け分かりやすくしている。自宅で使用していたベッドや寝具、タンスや籐椅子等を持ち込み利用者は居心地よく過ごし個性的である。畳の上に布団を敷いて寝る利用者もあり、個々の生活スタイルで自由に生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ内、浴室には手摺りを取り付け、安全に立位、歩行が出来るようにしている。トイレは入居者が見えやすい位置に表示している。キッチン、入居者に合わせて対面式カウンターを設置している。		

(様式2)

事業所名:グループホームゆうゆう

目標達成計画

作成日: 令和4年8月9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6(5)	玄関の施錠について、現在は玄関横の坂道が急で危険な為、安全を優先し、施錠している。施錠が常態化し、入居者にとって閉塞感をあたえることになる。	玄関の出入りがいつでも自由にできるために、開錠する時間を、増やす。	玄関前での行事ごとや、外気浴などの際は、職員が見守りをするを条件に、玄関を開放する。	6か月
2	8(7)	権利擁護に関するパンフレットは、数種類備えているが、職員全員が日常生活支援事業や成年後見人制度について、理解できていない。	職員が、権利擁護についてある程度、理解できるような機会を持つ。	日常生活支援事業や成年後見制度についての研修や勉強会に参加する機会を持つ。	6か月
3	33(16)	重度化した場合、終末期をどこで迎えるか、ご本人、ご家族の思いをお聞きし、お互いに確認することがまだ、すべての入居者に出来ていない。	「重度化した場合の意思確認書」を見直し、作成するとともに、それぞれの入居者及びご家族の思い、意向をお聴きする。	特養へ移ることも含め、本人及び家族に意向を確認し「確認書」を仕上げる。	7か月
4	35(17)	年2回、特養と合同での避難訓練を行っているが、入居者が避難した際、点呼方法をとっているが、ホーム内で避難済みの確認方法が整っていない。	ホーム内、避難済みの確認方法を、職員で考える。	避難訓練時に、実践する。	7か月
5					月

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他(自己評価については、職員の意見を聴きながら、各リーダーが主に記入した。)
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()